



Newspaper in Education

2022年 8月26日朝刊中部版

旧湯日小校舎 交流の場に

島田の有志団体 2階のスペース活用



地元の採れたて野菜や雑貨を並べたコーナーや駄菓子屋などを開設した地域開放スペース＝島田市湯日の「グランピング&ポート結」

島田市湯日地区の住民らで構成する有志団体が、旧湯日小の校舎を改装してオープンしたグランピング施設「グランピング&ポート結（ゆい）」2階のスペースを活用する取り組みを始めた。企画の第1弾として、21日に産直市場や駄菓子屋などを開設し、地域住民と采場者らをつなぐ交流の場が生まれた。

産直市場や駄菓子屋開設

施設管理者のアイワコネク

ト（島田市）が整備した地域開放スペースの活用を担うのは、同市の湯日と初倉地区の有志でつくる「ゆいまある」。会場には地元農家や事業者が出店し、新鮮な野菜や雑貨などが並んだ。昔懐かしい駄菓子屋や廃校となった湯日小にまつわる資料を展示するコーナーも開設し、にぎわいを見せた。

団体の片山正樹代表は「湯日小の歴史を伝えつつ、地域の憩いの場となるようにしたい」と意気込む。

スペースは宿泊者以外でも入場可能。今後は月1〜2回の頻度でイベントなどを企画する。次回の開催は9月18日を予定している。

（島田支局・池田悠太郎）

記事を読んで、問いに答えなさい。

①島田市の旧湯日小の校舎を改装してオープンしたグランピング施設を、島田市湯日地区の有志団体はどのように活用しはじめたのか。説明しなさい。

②あなたがもし地元の廃校となった場所を地域活性化のために活用するとしたら、どのようなねらいをもった企画を考えるか。記事を参考にしながら、説明しなさい。

年 組 名前

作問者：NIEアドバイザー 伊藤 大介（静岡聖光学院中学校・高校 教諭）

（中学校～高校／社会、総合）

旧湯日小校舎 交流の場に

島田の有志団体 2階のスペース活用



地元の採れたて野菜や雑貨を並べたコーナーや駄菓子屋などを開設した地域開放スペース＝島田市湯日の「グランピング&ポート結」

施設管理者のアイワコネク
ト（島田市）が整備した地域
開放スペースの活用を担う
のは、同市の湯日と初倉地区
の有志でつくる「ゆいまあ
る」。会場には地元農家や事
業者が出店し、新鮮な野菜や
雑貨などが並んだ。昔懐かし
い駄菓子屋や廃校となった湯
日小にまつわる資料を展示す
るコーナーも開設し、にぎわ
いを見せた。

団体の片山正樹代表は「湯
日小の歴史を伝えつつ、地域
の憩いの場となるようにし
たい」と意気込む。

スペースは宿泊者以外でも
入場可能。今後は月1〜2回
の頻度でイベントなどを企画
する。次回の開催は9月18日
を予定している。

（島田支局・池田悠太郎）

島田市湯日地区の住民らで構成する有志団体が、旧湯日小の校舎を改装してオープンしたグランピング施設「グランピング&ポート結（ゆい）」2階のスペースを活用する取り組みを始めた。企画の第1弾として、21日に産直市場や駄菓子屋などを開設し、地域住民と采場者らをつなぐ交流の場が生まれた。

産直市場や駄菓子屋開設

記事を読んで、問いに答えなさい。

①島田市の旧湯日小の校舎を改装してオープンしたグランピング施設を、島田市湯日地区の有志団体はどのように活用しはじめたのか。説明しなさい。

（例）野菜の産直市場や駄菓子屋を開設したり、廃校となった湯日小にまつわる資料を展示するコーナーを開設したりした。

②あなたがもし地元の廃校となった場所を地域活性化のために活用するとしたら、どのようなねらいをもった企画を考えるか。記事を参考にしながら、説明しなさい。

（例）廃校になった卒業生と現役の地域の学生との交流を促し、企業の研修として宿泊している方の職業の魅力を卒業生や学生の前で語る場も設定することで、社会の中での人々の縦と横の複合的なつながりを深めていく交流の場としていく。

作問者：NIEアドバイザー 伊藤 大介（静岡聖光学院中学校・高校 教諭）

（中学校～高校／社会、総合）